

2. 概 要

2-1 入港船舶の概要

気仙沼港入港船舶前年比較表

内・外航船別		平成23年 (A)	構成比 (%)	平成22年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	隻 数	992	100.0	4,822	△ 3,830	20.6
	総トン数	347,825	100.0	1,373,811	△ 1,025,986	25.3
外 航 船	隻 数	0	0.0	11	△ 11	0.0
	総トン数	0	0.0	15,911	△ 15,911	0.0
内 航 船	隻 数	992	100.0	4,811	△ 3,819	20.6
	総トン数	347,825	100.0	1,357,900	△ 1,010,075	25.6

平成23年における気仙沼港の入港船舶は、隻数が992隻、総トン数が347,825総トンであり、前年と比較して、隻数で3,830隻（-79.4%）減少し、総トン数では1,025,986総トン（-74.7%）減少している。

トン数階級別では、5総トン以上500総トン未満の船型が876隻と最も多く、全体の88.3%を占めている。

(1) 外航船

平成23年における外航船の入港は0隻であり、前年より隻数で11隻（皆減）、総トン数では15,911総トン（皆減）減少している。

(2) 内航船

内航船は、隻数で992隻と前年より3,819隻（-79.4%）減少し、総トン数では347,825総トンと1,010,075総トン（-74.4%）減少している。

トン数階級別では、5総トン以上500総トン未満の船型が876隻と最も多く、内航船の88.3%を占めている。

2-2 海上出入貨物の概要

気仙沼港海上出入貨物前年比較表

区 分		平成23年 (A)	構成比 (%)	平成22年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計		294,465	100.0	849,237	△ 554,772	34.7
外貨貨物	輸 出	0	0.0	3,484	△ 3,484	0.0
	輸 入	0	0.0	0	0	—
	計	0	0.0	3,484	△ 3,484	0.0
内貨貨物	移 出	49,390	16.8	295,565	△ 246,175	16.7
	移 入	245,075	83.2	550,188	△ 305,113	44.5
	計	294,465	100.0	845,753	△ 551,288	34.8

平成23年における気仙沼港の取扱貨物量は294,465トンであり、前年と比較して554,772トン(-65.3%)減少している。

平成23年は外貨貨物の取扱いが無く、全て内貨貨物となっている。

気仙沼港主要取扱貨物前年比較表(81品目)

品 種	平成23年 (A)	構成比 (%)	平成22年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	294,465	100.0	849,237	△ 554,772	34.7
161 砂 利 ・ 砂	167,475	56.9	0	167,475	—
999 自航(フェリー)	86,410	29.3	577,180	△ 490,770	15.0
321 石 油 製 品	15,280	5.2	97,700	△ 82,420	15.6
311 重 油	15,180	5.2	112,465	△ 97,285	13.5
211 非 金 属 鉱 物	9,760	3.3	58,408	△ 48,648	16.7
511 廃 棄 物	360	0.1	0	360	—
081 水 産 品	0	0.0	3,484	△ 3,484	0.0

取扱貨物については、砂利・砂が取扱貨物量全体の56.9%を占め、前年と比較して167,475トン(皆増)増加している。

砂利・砂を除いた主な品種は、自航(フェリー)、石油製品、重油、非金属鉱物であり、それらで取扱貨物量全体の43.0%を占めている。

(1) 輸 出

気仙沼港主要輸出貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成23年 (A)	構成比 (%)	平成22年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	0	—	3,484	△ 3,484	0.0
081 水 産 品	0	—	3,484	△ 3,484	0.0

平成23年における、輸出の取扱いは無く、前年と比較して3,484トン減少している。

(2) 輸 入

気仙沼港主要輸入貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成23年 (A)	構成比 (%)	平成22年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	0	—	0	0	—

平成23年における、輸入の取扱いは無く、前年も同様である。

(3) 移 出

気仙沼港主要移出貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成23年 (A)	構成比 (%)	平成22年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	49,390	100.0	295,565	△ 246,175	16.7
999 自航 (フェリー)	48,050	97.3	288,470	△ 240,420	16.7
311 重 油	980	2.0	7,095	△ 6,115	13.8
511 廃 棄 物	360	0.7	0	360	—

移出は49,390トンで、貨物量全体の16.8%を占めており、前年と比較して246,175トン（-83.3%）減少している。そのうち、自航（フェリー）が移出全体の97.3%となっており、前年と比較して240,420トン（-83.3%）減少している。

自航を除いた主な品種は重油であり、移出全体の2.0%を占めている。

(4) 移 入

気仙沼港主要移入貨物前年比較表（81品目）

品 種	平成23年 (A)	構成比 (%)	平成22年 (B)	増減 (A)-(B)	前年比 (%)
合 計	245,075	100.0	550,188	△ 305,113	44.5
161 砂 利 ・ 砂	167,475	68.3	0	167,475	—
999 自 航 (フェリー)	38,360	15.7	288,710	△ 250,350	13.3
321 石 油 製 品	15,280	6.2	97,700	△ 82,420	15.6
311 重 油	14,200	5.8	105,370	△ 91,170	13.5
211 非 金 属 鉱 物	9,760	4.0	58,408	△ 48,648	16.7

移入は 245,075 トンで、貨物量全体の 83.2%を占めており、前年と比較して 305,113 トン（-55.5%）減少している。

そのうち、砂利・砂が移入全体の 68.3%となっており、前年と比較して 167,475 トン（皆増）増加している。

自航を除いた主な品種は自航（フェリー）、石油製品、重油、非金属鉱物であり、これらで移入全体の 31.7%を占めている。

2-3 施設利用の概要

(1) 入港船舶（500 総トン以上の船舶）

気仙沼港入港船舶公専別前年比較表

区 分 年 別	公共埠頭		専用埠頭		公共埠頭の比率 (%)	
	隻 数	総トン数	隻 数	総トン数	隻 数	総トン数
平成23年 (A)	99	93,358	17	15,557	85.3	85.7
平成22年 (B)	30	33,180	84	76,302	26.3	30.3
増減 (A)-(B)	69	60,178	△ 67	△ 60,745	—	—
前年比 (%)	330.0	281.4	20.2	20.4	—	—

入港船舶（500 総トン以上）の係留状況について、公共・専用別にみると、公共埠頭が 99 隻の利用で全体の 85.3%を占めており、前年と比較して 69 隻（230.0%）増加している。専用埠頭については、17 隻で全体の 14.7%を占めており、前年と比較して 67 隻（-79.8%）減少している。

総トン数については、公共埠頭が 93,358 総トンで全体の 85.7%を占めており、前年と比較して 60,178 総トン（181.4%）増加している。また、専用埠頭は 15,557 総トンで全体の 14.3%を占めており、前年と比較して 60,745 総トン（79.6%）減少している。

(2) 海上出入貨物

気仙沼港海上出入貨物公専別前年比較表

区 分 年 別	公共埠頭	専用埠頭	公共埠頭の比率
	(フレート・トン)	(フレート・トン)	(%)
平成23年 (A)	264,005	30,460	89.7
平成22年 (B)	639,072	210,165	75.3
増減 (A)-(B)	△ 375,067	△ 179,705	—
前年比 (%)	41.3	14.5	—

※ 自航（フェリー）を含んだものである。

取扱貨物量について公共・専用別にみると、公共埠頭が 264,005 トンで全体の 89.7%を占めており、前年と比較して 375,067 トン（-58.7%）減少している。

また、専用埠頭については 30,460 トンで全体の 10.3%を占めており、前年と比較して 179,705 トン（-85.5%）減少している。